

巻 頭 言



山口県知事 村岡 嗣政

山口県の潜在力を活かして 「大交流維新」実現へ

明治改元から150年の節目となった昨年の10月、山口県では、今後の県政運営の指針となる「やまぐち維新プラン」を策定し、「活力みなぎる山口県」の実現を目指して、新たな県づくりに取り組んでいます。

プランでは、「産業維新」、「大交流維新」、「生活維新」の「3つの維新」を柱に掲げ、山口県の強みや潜在力を最大限活かした取組を戦略的、計画的に進めることとし、中でも、国際交流の推進については、人やモノの流れを拡大する「大交流維新」の重点施策と位置づけ、友好・姉妹提携先である海外自治体との交流や、多文化共生の取組などを推進しています。

海外自治体との交流については、友好・姉妹提携先である中国・山東省、韓国・慶尚南道、スペイン・ナバラ州と、長年にわたり、経済、教育、文化など様々な分野で交流を進めてきました。近年では、ベトナム・ビンズン省、ロシア・クラスノダール地方とも友好・協力に関する覚書や協定を締結するなど、海外との交流基盤を着実に拡大しています。

昨年は、私自身、初めてナバラ州を訪問し、現地で「ヤマグチ公園」や「ヤマグチ図書館」など、本県の名を冠した施設が住民の皆様にも親しまれている様子を目の当たりにし、海外自治体との積極的な交流を重ねることで、互いに文化を理解し、親愛の情を育てていけることを実感しました。今後も、海外との交流基盤を活用し、国際交流を更に発展させていきます。

また、来年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けては、スペインのホストタウンとして、交流拡大による地域活性化や県民の国際理解の一層の推進を図ります。

次に、全国的に喫緊の課題となっている多文化共生の取組については、この4月の新たな在留資格の創設などにより、本県においても、外国人住民が益々増加する見込みであるため、外国人との共生社会の実現に向けた取組が求められています。

こうした中、本県では、新たに「やまぐち外国人総合相談センター」を山口県国際交流協会に設置し、外国人住民からの相談を一元的に受け付け、多言語によるきめ細かい対応や情報提供を行う環境を整えたところです。

多文化共生の考え方は、地域づくりにおいて欠かせない視点であることから、今後とも、外国人住民が安心して生活できる環境づくりに加え、県民の異文化に対する理解増進や共生意識の醸成を図ります。

年号が改まった本年が、本県にとって、「大交流維新」の新たな幕開けの年となるよう、しっかり取り組んでいきます。